

北海道港湾空港建設協会

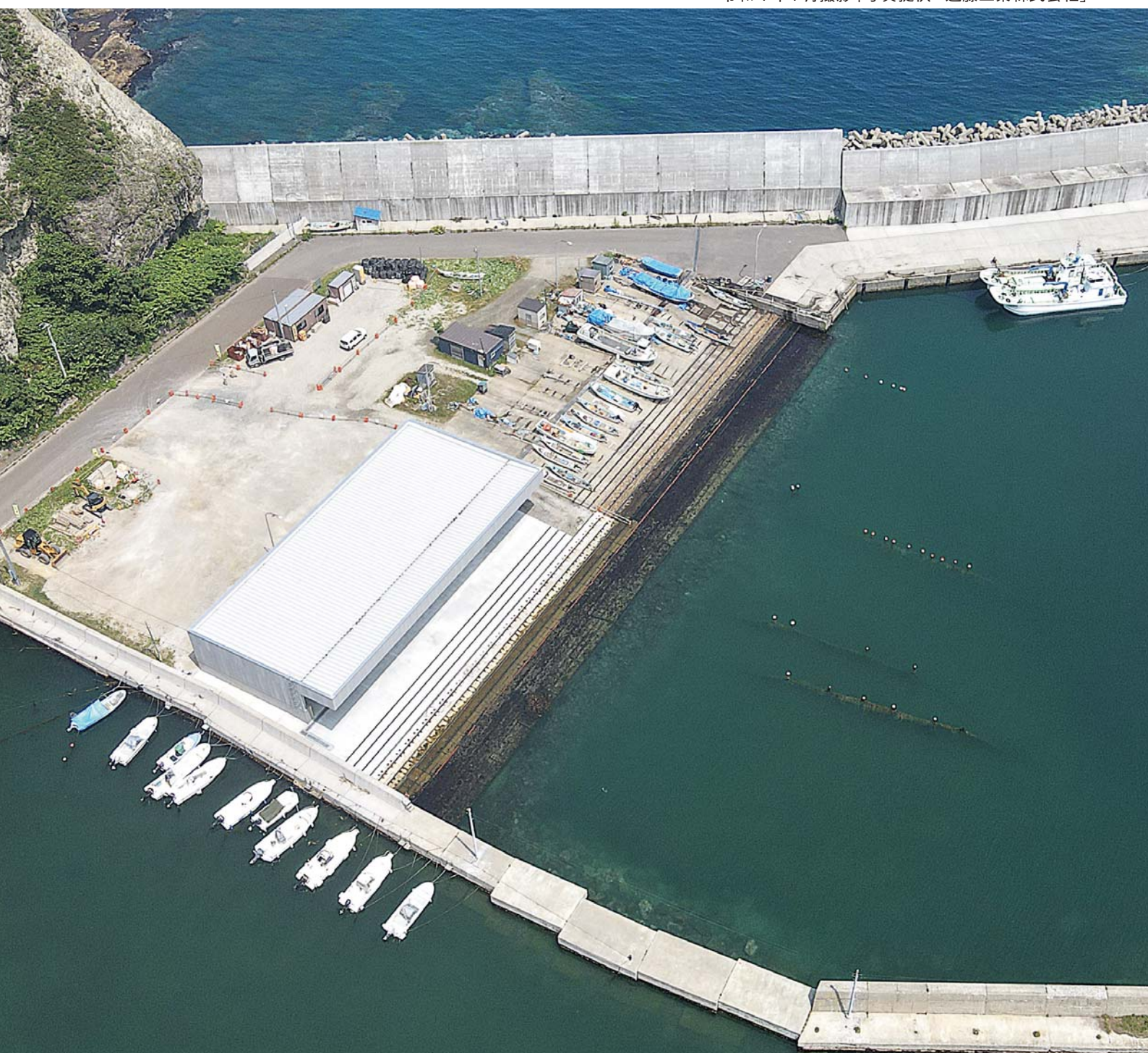
会報

令和4年9月

北のみなと

No.106

令和4年7月撮影「写真提供：近藤工業株式会社」



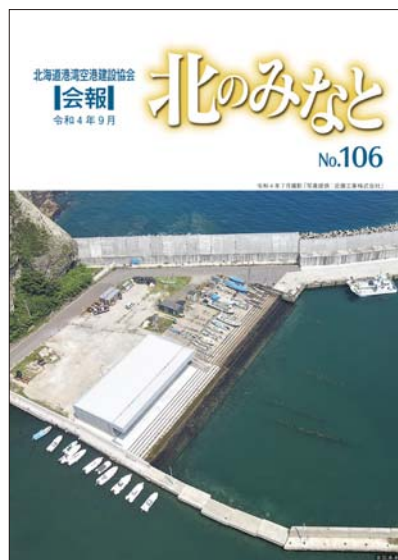
— 目 次 —

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第39回通常総会開催	1
--------------------------	---

受賞

令和4年度 国土交通省「海の日」海事関係功労者大臣表彰	2
令和4年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰	3
令和4年度 北海道開発局優良工事等表彰	4
令和4年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰	6
令和4年度 北海道開発局海をきれいするための一般協力者の奉仕活動表彰	7
北海道開発局 i-Con奨励賞2022	8
令和4年度 関係協会表彰	12
・(公社) 日本港湾協会 企画賞	
・(公社) 日本港湾空港建設協会連合会会長表彰 港湾功労者賞	
・(公社) 日本港湾協会 港湾功労者表彰	
・(一社) 全日本漁港建設協会表彰	
令和3年度 全建賞	17
・苫小牧港複合一貫輸送ターミナル整備事業	
・増毛港屋根付き岸壁事業	
・直轄特定漁港漁場整備事業(厚岸地区) 厚岸漁港衛生管理施設の整備	



美国漁港

◎美国漁港の役割

美国漁港は、北海道日本海沿岸、積丹半島突端部の東側に位置し、周辺海域で操業する道内外のイカ釣り漁業、刺網及び磯根漁業等の生産拠点としての役割を担っている第3種漁港です。

◎主な整備方針

- ①衛生管理対策の推進及び出荷車両動線の適正化を図るため、岸壁に屋根施設を整備して荷捌きスペースを確保するとともに、荷捌き所周辺の道路、駐車場、用地を整備。
- ②冬季操業の就労環境を改善するため、船揚場への屋根掛け整備。
- ③ウニを中心とした磯根漁業の生産拠点機能強化のため、前浜利用となっている第3港区において、船揚場や道路、防波堤などの整備。

各種記事

新たな「漁港漁場整備長期計画」について (北海道開発局農業水産部水産課)	20
我が社の安全衛生管理 (株福津組 常務取締役 川村和彦)	24
私の趣味『趣味と仕事～ワークライフバランスを考えてみる』 (藤建設(株) 取締役副社長 笹島隆彦)	26
新造船紹介 (株富士サルベージ バックホウ浚渫船「栄富」)	28

Topics

室蘭港祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁の暫定供用について	30
枝幸港本港地区屋根付き岸壁暫定供用開始	31
みなとオアシスSea級グルメ北海道大会in室蘭	32

Information

事務局だより (計報 堀松建設工業(株)代表取締役社長 堀松一郎氏)	
業界だより・広報委員会だより	33

日本港湾空港建設協会連合会 第39回通常総会開催

新型コロナウイルス感染拡大のため一昨年は書面、昨年はリモート開催となりました日本港湾空港建設協会連合会第39回通常総会は令和4年5月11日、3年ぶりに東京明治記念館に全国から役員及び代議員出席のもと開催されました。

令和4年度の事業計画につきまして、以下のとおり報告致します。

令和4年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに、会員の意見・要望等を掲載した会報を4回／年発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術の開発向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。

講習会は、中堅技術者を対象に令和4年6月23日、山形県酒田市、9月には沖縄県那覇市にて開催する。さらに10月には経営者及び幹部社員を対象に、経営者セミナーを東京都において開催する。

また、「独占禁止法・コンプライアンス関係講習会」を（一社）日本埋立浚渫協会と共催で行う。

3 要望及び意見等の発信

①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。

②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。

③都道府県協会が行う港湾空

港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4 調査研究

①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集等を行う。

②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。

③契約・設計・積算に関する調査研究。

④労働・安全・税制に関する調査研究。

⑤建設行政に関わる調査研究。

5 港湾及び空港の整備・振興に関する広報・啓発活動

①港湾及び空港の整備・振興に関し、広く社会一般に理解を得るための広報・啓発活動を行う。

②港湾及び空港の整備・振興の必要性を広く国政の場に反映するため、関係国会議員等の理解を得るための活動を展開する。



令和4年度 国土交通省 「海の日」海事関係功労者大臣表彰

国土交通省の令和4年度「海の日」海事関係功労者大臣表彰（海をきれいにするための一般協力者）の受賞者として道内港湾関係で三協建設株式会社が栄誉に輝きました。

三協建設株式会社は、毎年5月の大型連休前に、海上作業の安全と海象状況の安定を祈願しながらゴールデンビーチるもい（留萌市沖見町）の海岸清掃を社員全員で行い、環境美化保全、利用者の環境意識の向上に貢献していることが高く評価されました。

表彰式は、7月20日国土交通省において開催されました。

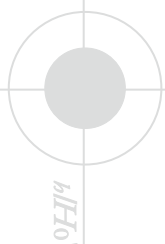


三協建設株式会社
代表取締役社長
堀松 秀樹 氏

生年月 昭和42年2月

略 歴

平成3年4月	三協建設株式会社	入社
平成16年2月	同社	取締役
平成17年2月	同社	常務取締役
平成18年2月	同社	代表取締役社長
		現在に至る



$R_{H^{1/3}/H_0'}$

h/H_0'

令和4年度 漁港漁場関係事業優良請負者 表彰受賞者

水産庁の令和4年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰として小針土建㈱（本社：中標津町 小針 武志代表取締役社長）が農林水産大臣表彰、機械開発北旺㈱（本社：札幌市 數土 勉代表取締役社長）が水産庁長官表彰を受賞しました。

本表彰は漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者を表彰するものです。

表彰式は5月12日水産庁において行われました。

【農林水産大臣表彰】



小針土建 株式会社
小針 武志 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	中標津町
創業	大正10年
設立	昭和25年
資本金	5,000万円

【水産庁長官表彰】



機械開発北旺 株式会社
數土 勉 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	札幌市
創業	昭和32年
設立	昭和32年
資本金	1,400万円

令和4年度 北海道開発局優良工事等の表彰

北海道開発局は工事等に係る技術の向上を目的として、前年度に完成した工事及び完了した業務の中から、優秀な成果を収めた企業及び技術者を表彰しております。

今年度は令和3年度に完成した工事1,596件の中から局長表彰32件（32社）、各開発建設部長表彰91件（92社）が選定され、工事を実施した企業と、その工事に携わった技術者が表彰されました。本年度の表彰工事はICT、CIMを活用し、生産性向上に優れた成果を上げた工事や週休2日の取組みを達成した工事が多数含まれています。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①村井建設㈱が施工した「歯舞漁港－3.5m岸壁（改良）その他工事」②藤建設㈱が施工した「稚内港北護岸防波改良工事」の2件（2社）が受賞しました。

開発建設部長表彰は、札幌（日本道路㈱）、函館（㈱森川組、㈱菅原組）、小樽（㈱吉本組）、室蘭（酒井建設㈱）、釧路（㈱濱谷建設）、網走（藤共工業㈱）及び留萌（白鳥建設工業㈱）が受賞しました。

なお、局長表彰式は新型コロナウイルス感染症予防の観点から7月27日、2回に分けて開催されました。また、開発建設部長表彰は各開発建設部において開催されました。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：歯舞漁港－3.5m岸壁（改良） その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：村井建設㈱

技術者：



千坂 大氏



〔表彰理由〕

本工事は、他機関の発注する工事と輻輳するなど調整事項も多く、工程管理が難しい条件下でしたが、積極的に関係機関と工程調整するとともに、自らプレキャスト製品を採用するなど、省力化・効率化を図りました。

特に、温根元地区の施工にあたっては、当初は人力施工を想定していましたが、機械施工を導入することにより省力化を図るとともに良好な出来映え・品質が確保され、さらに作業中の安全性も向上しました。

また、荒天後には、港内において清掃活動や流水着岸時に砕氷作業に協力するなど、関係者と良好な関係を図ることにより、円滑な工事を実施しました。これらの取組は他の工事の模範となるものでした。

○工事名：稚内港北護岸防波改良工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：藤建設㈱

技術者：



阿部 正和 氏



【表彰理由】

本工事は、既設構造物が曲面形状で波浪の影響を受けるため、特殊な施工が求められることから、効率的かつ安全な作業の実現が課題でした。このような条件下において、出来形測定に関し、レーザー測定器を採用したことにより曲面部における出来形測定を効率的に実施できたことに加え、曲面で足もとが不安定な条件においても転落・墜落に対する安全性が向上しました。

また、環境対策として施工箇所底面に受け枠を設置し、ウォータージェット施工時に発生するハツリ殻や濁水による周辺海域への流出を防止する環境対策も行いました。

さらに、地元小学校の開校50周年を記念してブランコを設置するなどの地域貢献も果たしました。こうして的確な施工の結果、施工精度に優れ、出来映えも良く、無事故で工事を完成させたことから、高く評価されたものです。

【各開発建設部長表彰】

○工事名：新千歳空港 誘導路新設外工事

発注者：札幌開発建設部

施工者：日本道路㈱

技術者：青山 雅敏 氏

○工事名：福島漁港護岸改良その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：㈱森川組

技術者：佐々木 健吾 氏

○工事名：臼尻漁港外2港船揚場その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：㈱菅原組

技術者：長内 久 氏

○工事名：寿都漁港 南ふ頭建設工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：㈱吉本組

技術者：浜谷 亮 氏

○工事名：苫小牧港西港区－3m物揚場建設
その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：酒井建設㈱

技術者：寶金 広明 氏

○工事名：釧路港土砂処分場護岸建設
その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：㈱濱谷建設

技術者：伊藤 隆 氏

○工事名：網走港 異形ブロック製作工事

発注者：網走開発建設部

施工者：藤共工業㈱

技術者：熊坂 哲男 氏

○工事名：遠別漁港新北防波堤補修工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：白鳥建設工業㈱

技術者：齊藤 秀樹 氏

令和4年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は8月2日、札幌第1合同庁舎において、令和4年度「港湾空港関係功労者表彰」の表彰式を行いました。

本表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、多大な功労があった方々を対象に実施しています。

今年度は小針土建株式会社（中標津町）の小針武志社長が受賞されました。

小針武志社長は、港湾関係の建設事業の経営責任者として港湾整備の拡充に尽力した功績が顕著であったことから表彰されたものです。



小針土建株式会社

代表取締役社長

小針 武志 氏

生年月 昭和39年1月

略 歴

昭和61年4月	飛鳥建設株式会社	入社
平成2年1月	小針土建株式会社	入社
平成7年6月	同上	常務取締役
平成12年5月	同上	専務取締役
平成19年4月	同上	代表取締役社長
		現在に至る

令和4年度 北海道開発局 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰

北海道開発局は8月2日、札幌第1合同庁舎において、令和4年度「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行いました。

本表彰は、海の利用・開発、海洋環境保全に対する国民の理解と協力を得て、海洋・海事思想のより一層の普及に資することを目的としています。

株式会社森川組（函館市）は、平成22年から毎年6月、函館駅周辺からベイエリアまでボランティアによる草刈り及び清掃を行い、今年で13年目を迎えました。

函館港が市民や観光客にとって、憩いの場として快適に利用してもらいたいとの思いから函館港の美化・清掃活動に尽力されており、その功績が顕著なことから受賞されたものです。

なお、北海電気工事株式会社稚内営業所（稚内市）も稚内港北防波堤ドームにおいて、平成24年から毎年1回、ボランティアによる高所作業車等、自社機材を用いた照明灯清掃活動を行い、環境美化保全、環境意識向上に貢献していることから受賞されました。



株式会社 森川組

代表取締役社長

森川 基嗣 氏

生年月 昭和21年8月

略 歴

昭和44年4月	三共開発株式会社	入社
昭和46年3月	株式会社 森川組	入社
昭和47年2月	同上	専務取締役
昭和59年3月	同上	代表取締役社長
	現在に至る	

$R_{H^{1/3}/H_0}'$



b/H_0'

北海道開発局 i-Con奨励賞2022 受賞

近藤工業・勇建設経常建設共同企業体

小樽港岸壁（-10m）改良工事〔藤原真一／近藤工業㈱、渡邊大輔／勇建設㈱〕が、「北海道開発局i-Con奨励賞2022」を受賞しました。

本工事は、小樽港で急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、クルーズ船の受け入れ環境の整備及び老朽化対策として、第3ふ頭岸壁を改良する工事です。

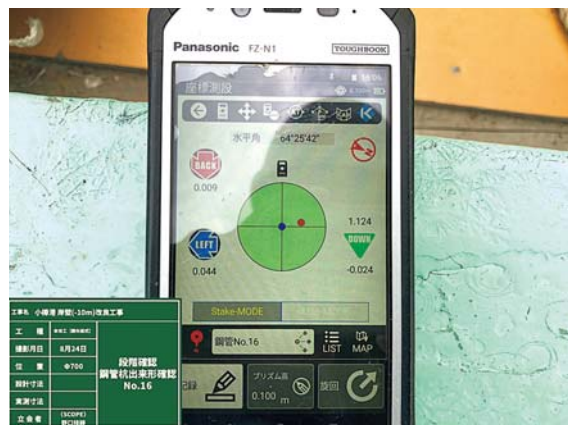
矢板式岸壁の施工にあたって、ICT施工現場端末アプリと自動追尾式TSの連動使用により、鋼矢板打設時等の施工管理が従来トランシット2方向からの視準が不要になりTS1台で計測でき、手軽にオペレーターをガイダンスサポートすることができ、施工性が向上しました。

また、CIMモデルを作成することにより、3次元的に現場条件を把握することで施工時の手戻り防止や安全対策に活用でき、工事を効率的に進めることができました。

今後ともに、働き方改革の重要な取り組みの一つであるi-Constructionの普及促進及び技術向上に向け、建設現場における一人一人の生産性を向上させ、魅力ある現場環境改善を目指すことに努めます。



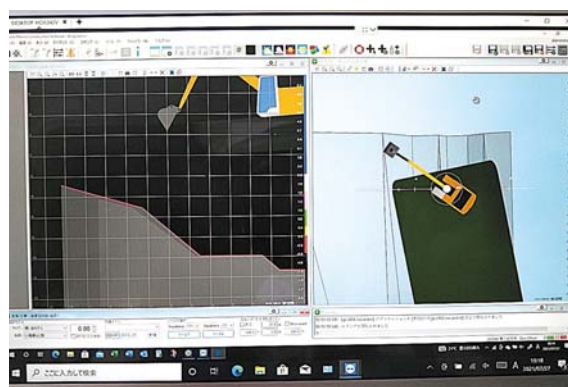
端末アプリによる出来形確認状況



端末アプリガジェット



ナビゲーションシステム使用状況



車載モニター表示

北海道開発局 i-Con奨励賞2022 受賞

葵建設株式会社

釧路港土砂処分場護岸A部建設工事が「北海道開発局i-Con奨励賞2022」を受賞しました。

本工事は、釧路港西港区内に土砂処分場を築造する工事です。

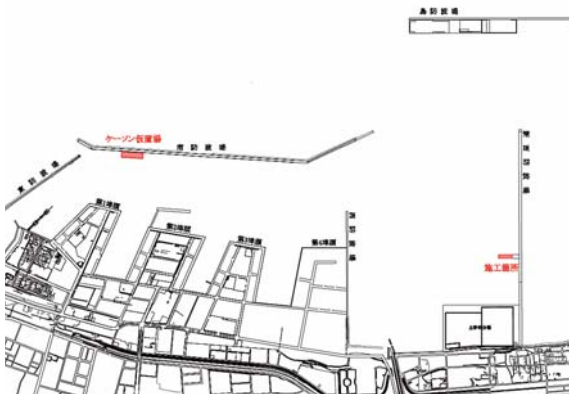
ICT活用は、本体工のケーソン据付時に自動追尾型トータルステーションを導入しました。

据付時にケーソン側壁部の前後に視準点ポールを各1台設置し、自動追尾型トータルステーションを2台使用し、目標据付位置までタブレット画面にリアルタイムに表示され、据付位置情報が可視化されたことでの確かな誘導ができ、据付精度の向上が図られ、据付時の出来形も規格値を十分に満足する施工が出来ました。

また、据付誘導作業も測量人員1名で行うことができ、人員の削減にもなりました。

ICT活用では、若手職員を登用し、担い手確保に向けた取り組みも行いました。

今後も、ICT技術活用を積極的に導入した施工に取り組んでいきたいと思ひます。



施工位置図



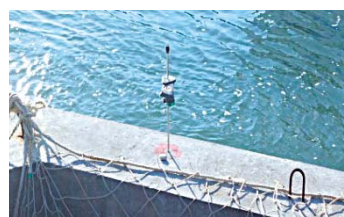
自動追尾型トータルステーション施工状況



自動追尾型トータルステーション(2台)設置



タブレットによる誘導状況



視準点ポール設置状況

北海道開発局 i-Con奨励賞2022 受賞

拓殖工業株式会社

対象工事：大津漁港北防波堤改良その他工事

当工事は、豊頃町「大津漁港」既設北防波堤の波力抵抗の増大を目的とした改良工事です。

港内泊地に水中仮置きされた消波ブロックを撤去し、北防波堤港内側へ据付します。

今回は、ブロック据付完了時の、「ICTブロック据付工（簡易）」を採用し、出来形管理を実施しました。

従来は、岸壁からトータルステーションで水面上の位置確認及び水中部の潜水土による計測管理としていましたが、全体的なブロック位置の把握が不十分でした。

今回「ICTブロック据付工（簡易）」を導入したことで、UAVによる完成形状測量及びマルチビームを用いた三次元測量を実施し、ブロックの位置を安全に効率よく広範囲に計測でき、三次元データ化することで、水面上と水面下の位置を正確に把握する事が出来ました。

三次元データを活用することで、過年度データとして効率的な計画や、広範囲な維持管理及び、荒天後の変異確認時の基礎データとして、被災時の災害復旧の基礎資料に利活用できると考えます。



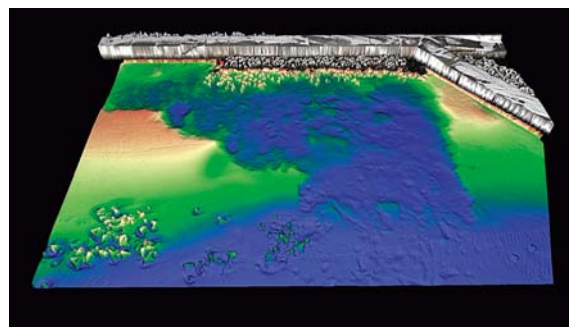
測量に用いたUAV



UAVによる測量状況



マルチビームによる三次元測量



UAV及びマルチビームによる成果

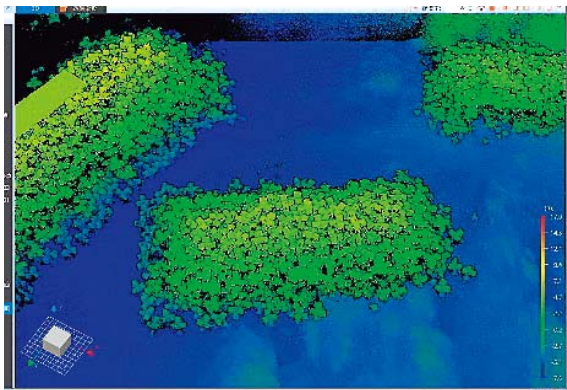
北海道開発局 i-Con奨励賞2022 受賞

(株)西村組

元稲府漁港北防波堤改良その他工事が『北海道開発局i-Con奨励賞2022』を受賞しました。本工事は、潤口部の静穏度を高め、漁船航行の安全向上を図るとともに、漁業活動の効率化、漁獲物の品質向上及び衛生管理対策を図るため、北防波堤・-3.5m岸壁・用地等を改良する工事です。

海上作業では、海象条件が悪くなる8月下旬からの施工開始となり、工程の遅れが予想されましたが、ブロック据付及び捨石荒均しにおいてICT技術を導入することで生産性が向上し、工程短縮や作業員数を低減することができました。

陸上作業では、3Dマシンガイダンスバックホウを導入することにより、従来配置していた作業員数の削減、運転操作の省力化となり、安全性の向上と施工管理・出来形管理の効率化が図られました。また、子供たちに建設業の魅力を伝えるためにAR、UAVを用いた現場見学会を実施し、担い手の確保を推進しました。



グリーンレーザスキャナ・マルチビームを組み合わせた消波工の3Dデータ



3Dマシンガイダンスシステムを活用したバックホウ船による捨石荒均し



3D-MCバックホウによる施工



ARを活用した現場見学会

令和4年度 (公社)日本港湾協会 企画賞

苫小牧港管理組合

北海道産農水産品の輸出拡大や苫小牧港の利用拡大を目的に、苫小牧港利用促進協議会が令和元年から実施しております「苫小牧港小口混載コンテナ輸送支援事業」がこの度、日本港湾協会企画賞を受賞し、令和4年5月25日長崎県佐世保市で行われた授賞式で表彰を受けました。

この企画賞は、港湾の啓蒙、整備促進への貢献等が顕著であった個人又は団体に授与されるもので、当事業の輸出拡大の気運醸成や創貨に繋がった点が評価され受賞に至りました。

当協議会は引き続き各関係機関と連携し、北海道産農水産品の輸出拡大に努めたいと考えております。



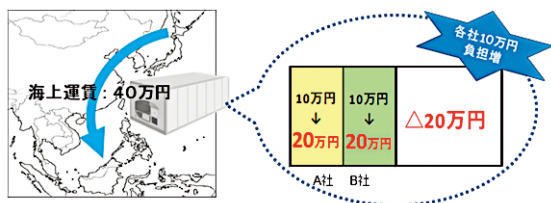
苫小牧港小口混載コンテナ輸送支援事業とは

苫小牧港利用促進協議会では、「苫小牧港小口混載コンテナ輸送支援事業」として、リーファーコンテナを活用した小口混載貨物輸送サービスを行う貨物利用運送事業者に対し、コンテナ内の空きスペースに係る輸送料金の支援を令和元年度から実施しています。

令和4年度は、ナラサキスタックス㈱（台湾向け）・苫小牧埠頭㈱（シンガポール向け）・㈱栗林商会（香港向け）のサービスが、月1回以上の頻度で定期輸送しています。

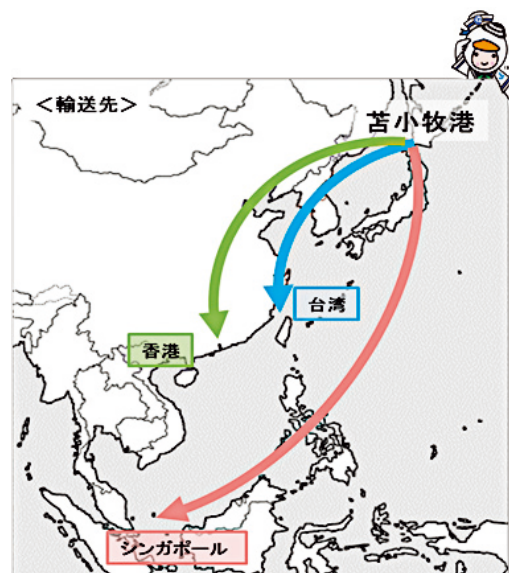
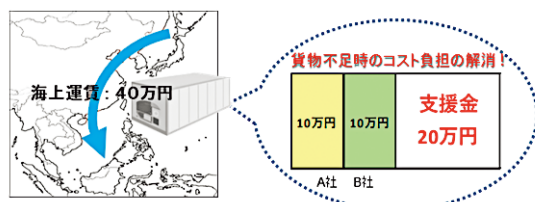
◎これまで・・・

A社、B社10万円の想定が貨物不足により20万円に・・・。



◎支援により・・・

貨物が集まらなくても、当初想定で価格で輸送可能に！



令和4年度 (公社)日本港湾空港建設協会連合会 会長賞表彰 港湾功労者賞

北海道港湾空港建設協会から10名受賞

経営合理化、工費適正化、技術向上、作業効率化及び従業員の労務・厚生改善等により協会発展に尽くされた功績により、日本港湾空港建設協会連合会第39回通常総会において、当協会から以下の方々が会長賞を受賞されました。
受賞されました皆様には心からお慶び申し上げます。

代表者表彰



菅原 修 氏

生年月 昭和29年 9 月

(株)菅原組 代表取締役

略 歴

昭和52年 4 月 大新土木株式会社 入社
昭和54年 4 月 (株)菅原組 入社
平成 7 年 3 月 同上 専務取締役
平成27年 6 月 同上 代表取締役
現在に至る



長谷川 英勝 氏

生年月 昭和36年 8 月

あおみ建設(株)北海道支店
執行役員支店長

略 歴

昭和61年 国土総合建設(株) 入社
平成20年 あおみ建設(株)に社名変更
平成26年 同社 北海道支店 執行役員支店長
現在に至る

従業員表彰 (順不同)



赤澤 信幸 氏

生年月 昭和40年 9 月

勇建設(株) 工事部次長

略 歴

昭和63年 勇建設(株) 入社
令和 2 年 同社 工事部次長
現在に至る



東 昭浩 氏

生年月 昭和41年 9 月

(株)菅原組 工事本部業務管理課長

略 歴

昭和62年 入社
令和 4 年 6 月 工事本部業務管理課長
現在に至る



大森 寛 氏

生年月 昭和46年 3 月

(株)高木組 工事部長

略 歴

平成 5 年 (株)高木組 入社
令和 4 年 同社 土木部 工事部長
現在に至る



小坂 昌勝 氏

生年月 昭和43年 4 月

藤建設(株) 土木次長

略 歴

平成元年 藤建設(株) 入社
平成27年 同社 土木次長
現在に至る



高木 清志 氏

生年月 昭和35年10月

白鳥建設工業(株) 営業管理部部長

略 歴

昭和54年 白鳥建設工業(株) 入社
平成28年 同社 営業管理部部長
現在に至る



千葉 昭宏 氏

生年月 昭和35年 7 月

(株)西村組 函館営業所 所長

略 歴

昭和63年 (株)西村組 入社
平成29年 同社 函館営業所 所長
現在に至る



花田 一仁 氏

生年月 昭和43年12月

堀松建設工業(株) 土木部
工事課長

略 歴

昭和62年 堀松建設工業(株) 入社
平成31年 同社 土木部 工事課長
現在に至る



三上 和哉 氏

生年月 昭和42年 6 月

機械開発北旺(株) 工事部部長

略 歴

平成 2 年 北海道機械開発(株) 入社
令和 4 年 機械開発北旺(株) 工事部部長
現在に至る

令和4年度 (公社)日本港湾協会 港湾功労者表彰

永年に亘り港湾に関する職務に従事し、功績が特に顕著であること、港湾の管理運営振興、計画設計、施工の各部門に関して研究、実施等に特に顕著な成果をあげ、他の模範となる方を対象に表彰している令和4年度(公社)日本港湾協会 港湾功労者に以下の方々が受賞されました。

受賞されました皆様には心からお慶び申し上げます。

北海道港湾協会推薦 (順不同)



阿部 勝 氏

生年月 昭和35年 9 月

五洋建設(株) 調査役

略 歴

昭和58年 北海道開発局 採用
平成29年 小樽開発建設部 次長
令和2年 (一財)港湾空港総合技術センター 北海道支部副支部長
令和4年 五洋建設(株) 調査役
現在に至る



今 宗紀 氏

生年月 昭和35年 7 月

北海道エアポート(株)総合企画本部
空港計画部 担当部長

略 歴

昭和54年 北海道開発局 採用
令和元年 (一財)港湾空港総合技術センター 北海道支部 事業第一部長
令和2年 同 北海道支部 副支部長
令和3年 北海道エアポート(株) 総合企画本部 空港計画部 担当部長
現在に至る



伊藤 千尋 氏

生年月 昭和35年 7 月

(一財)港湾空港技術総合センター
北海道支部 事業第二部部长

略 歴

昭和54年 北海道開発局 採用
平成30年 函館開発建設部函館港湾事務所長
令和3年 (一財)港湾空港技術総合センター 北海道支部 事業第一部調査役
令和4年 (一財)港湾空港技術総合センター 北海道支部 事業第二部部长
現在に至る



渡辺 仁 氏

生年月 昭和36年 2 月

(一財)港湾空港技術総合センター
北海道支部 事業第一部 調査役

略 歴

昭和58年 北海道開発局 採用
平成31年 室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所 副所長
令和3年 (一財)港湾空港技術総合センター 北海道支部 事業第一部 調査役
現在に至る



相馬 洋 氏

生年月 昭和35年 5 月

近藤工業(株) 技術顧問

略 歴

昭和59年 北海道開発局 採用
平成30年 根室港湾事務所 副所長
令和3年 近藤工業(株) 技術顧問
現在に至る

全国浚渫業協会推薦



吉川 俊三 氏

生年月 昭和33年 5 月

(株)西村組 工事部課長

略 歴

昭和56年 4 月 島田建設株式会社 入社

平成23年 6 月 (株)西村組 入社

現在に至る

(一社)ウォーターフロント協会推薦



岩本 明子 氏

生年月 昭和28年 6 月

稚内のみなとを考える女性ネットワーク代表

略 歴

平成16年 稚内のみなとを考える女性ネットワーク入会

平成25年 稚内のみなとを考える女性ネットワーク代表に就任

現在に至る



折谷 久美子 氏

生年月 昭和34年12月

みなとまちづくり女性ネットワーク函館 代表

略 歴

平成15年 みなとまちづくり女性ネットワーク函館 発足・代表

令和4年 活動20周年

現在に至る

第40回 (一社)全日本漁港建設協会表彰

全日本漁港建設協会表彰は漁港建設業界、漁港漁場建設事業等の発展のために多大な貢献をされた方にその業績を称え、広く顕彰するもので、会員の代表者、従業員等が受章対象となっています。

今般、会員の従業員に対する表彰として、業務に精励し、成績顕著なものとして以下の方が優良従業員表彰されました。

心からお慶び申し上げます。



柿崎 真 氏

生年月 昭和39年 8 月

勇建設(株) 工事部工事長

略 歴

昭和62年 勇建設(株) 入社

平成28年 同社 工事部工事長

現在に至る

令和3年度 全建賞 受賞 苫小牧港複合一貫輸送ターミナル 整備事業

室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

室蘭開発建設部が整備を進める『苫小牧港複合一貫輸送ターミナル整備事業』が令和3年度全建賞に選ばれました。

苫小牧港西港区商港地区は、岸壁の老朽化に加えて、背後に上屋があることからエプロン幅が狭く、荷役の安全性や効率性に課題を抱えていました。

このため本事業において、老朽化した岸壁改良とともに既存の上屋を撤去し、荷役RORO船のシャーン輸送に係る荷役スペースをより広く確保するとともに、船舶が係留していない時に車両走行の支障となる係船直柱を地下へ埋設化するなどの工夫により、荷役作業の効率化が図られており、事業としての成果が明確に現れている点が評価されました。



施工箇所



現在の利用状況



令和3年度 全建賞 受賞 増毛港屋根付き岸壁事業

北海道開発局 留萌開発建設部

「増毛港屋根付き岸壁事業」が、令和3年度全建賞に選ばれました。増毛港の船溜物揚場は、整備後45年以上が経過し、老朽化の進行が著しい状況となっており、背後用地も狭く、非効率な漁業活動が課題となっていました。また、サケ定置網漁業（輸出品）は、これまで、野天の下での選別・積み込み・搬出等の荷役作業を行っており、鳥フンなどの異物混入や直射日光などによる品質・鮮度低下が課題となっていました。

そのため、増毛産水産品の更なる輸出促進を図ることを目的として、品質・衛生管理の強化に資する屋根付き岸壁の整備を推進しました。

受賞理由としては、水産品の荷役作業を行う屋根付き岸壁の整備を行い、水産品の陸揚げから出荷までに必要なスペースを考慮するなど、利用面を工夫した設計を行っており、水産品の付加価値の向上に資する成果が明確に現れたとともに、荷役設備の設置撤去作業が解消されたことで、荷役作業の効率化が図られた点を評価されました。

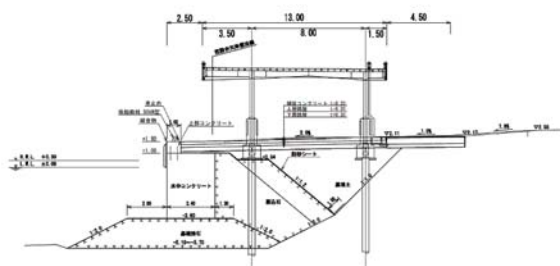
本事業は、屋根により鳥獣被害、直射日光等を防ぐと共に、滅菌海水装置の導入等と併せて、衛生管理水準が高度化され、増毛港衛生管理マニュアルに即した施設利用により、さらなる輸出促進を目指すものです。これらの取り組みは、工事関係者や関係機関の皆様のご理解・ご協力によるところであり、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。



完成した屋根付き岸壁



屋根下でのサケ陸揚げ状況



標準断面図



東京都内で行われた表彰式の様子

令和3年度 全建賞 受賞 直轄特定漁港漁場整備事業（厚岸地区） 厚岸漁港衛生管理施設の整備

北海道開発局 釧路開発建設部

「特定漁港漁場整備事業（厚岸地区）厚岸漁港衛生管理施設の整備」が、令和3年度全建賞に選ばれました。本事業は、屋根付き岸壁や清浄海水導入施設の整備により、大規模なさんまの産地での抜本的な衛生管理対策が図られ、その波及効果や影響範囲の大きな点が評価され、釧路港湾事務所は平成23年度以来の受賞となりました。

今回の事業にあたっては、衛生面や狭隘化、老朽化が課題となっていた水産物の陸揚について、陸揚機能を湖南地区第2埠頭に移転させ、屋根付き岸壁（延長403m、幅35m）や清浄海水導入施設の整備を行いました。岸壁で陸揚されたサンマは専用のタンクに入れ、屋根下で降雨、鳥糞、直射日光の影響を受けずに出荷まで仮置が可能となり、屋根背後に待機するトラックまで直線的な動線で積み込むことで作業時間も短縮されました。また、取水した海水は、清浄海水（ろ過、殺菌、冷却）、電解殺菌水（次亜塩素酸水）、原水の3種類に分類し、それぞれ用途に合わせて、鮮度保持、漁具洗浄、蓄養、活魚水槽、岸壁・荷捌所洗浄に利用できます。なお、盛漁期には漁業者をはじめ多数の漁業関係者が集まることから、駐車場の不足を解消するための人工地盤を整備しました。

衛生管理施設の整備により、厚岸の水産物の付加価値を向上させ、国民への安全・安心な安定供給が図られることが期待されています。



屋根施設全景



衛生管理施設全景



さんま陸揚状況



さんま仮置き状況

新たな『漁港漁場整備長期計画』について

北海道開発局 農業水産部水産課

本年3月、漁港漁場整備法に基づく新たな「漁港漁場整備長期計画」（以下、「長期計画」という）が閣議決定されました。

長期計画は、漁港や漁場といった水産業、漁村を支える基盤の整備を総合的かつ計画的に実施するため、5年を一期として定められるものです。

新たな長期計画では、これまでの長期計画（平成29年度～令和3年度）の進捗状況とともに、水産業と漁村を取り巻く状況の変化と水産業の現場や国民のニーズを踏まえ、令和4年度を初年度として今後5年間に重点的に取り組むべき課題を次の3つに整理し、漁港・漁場の整備を戦略的かつ計画的に推進することとされています。

<重点課題>

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

(3) 「海業（うみぎょう）」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

また、これらの重点課題への対応に当たり、脱炭素化等によるグリーン化の推進、ICTを活用したデジタル社会の形成、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等に伴う生活スタイルの変化への対応についても共通する課題として取り組んでいくこととされています。

本稿では、長期計画の概要について紹介します。

前計画（H29～R3）

- 以下の4つの重点課題を設定し、漁港漁場漁村の総合的かつ計画的な整備を推進

重点課題

- (1) 水産物の競争力強化と輸出促進
- (2) 豊かな生態系の創造と海域の生産力向上
- (3) 大規模自然災害に備えた対応力強化
- (4) 漁港ストックの最大限の活用と漁村のにぎわいの創出



情勢の変化

- 水産業・漁村を取り巻く状況
 - ・ 水産資源の減少による漁業・養殖業生産量の長期的な減少、漁業者の高齢化、漁村の人口減少
 - ・ 気候変動に伴う海洋環境の変化、自然災害の頻発化・激甚化
- 新たな政府方針の策定、社会情勢の変化
 - ・ 「水産政策の改革」の実施
 - 新たな資源管理システムの構築
 - マーケットイン型養殖業への転換
 - 農林水産物・食品の輸出額目標5兆円等
 - ・ カーボンニュートラルに向けた取組の推進
 - ・ デジタル化の進展
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大等

新計画（R4～R8）

- 今後5年間に取り組むべき重点課題を以下の3つに整理

- (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化
- (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保
- (3) 「海業（うみぎょう）」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

ア 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

漁港機能を再編・強化し、低コストで高付加価値の水産物を国内・海外に供給する拠点を創出する。

イ 養殖生産拠点の形成

国内・海外の需要に応じた安定的な養殖生産を行う拠点を創出する。



(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

ア 環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境を的確に把握し、その変化に適応した持続的な漁業生産力を持つ漁場・生産体制をつくる。

イ 災害リスクへの対応力強化

災害に対して、しなやかで強い漁港・漁村の体制をつくる。将来にわたり漁港機能を持続的に発揮する。



(3) 「海業（うみぎょう）」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

ア 「海業（うみぎょう）」による漁村の活性化

海業等を漁港・漁村で展開し、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出す。

イ 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

年齢、性別や国籍等によらず多様な人材が生き生きと活躍できる漁港・漁村の環境を整備する。



また、以下の事項についても共通する課題として取り組む。

(共通課題) 社会情勢の変化への対応

- (1) グリーン化の推進、(2) デジタル社会の形成、(3) 生活スタイルの変化への対応

新たな漁港漁場整備長期計画のポイント

＜重点課題（１）＞産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

ア 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

（目指す姿）

地域における漁港の適切な役割分担に基づき、漁港機能を再編・強化し、サプライチェーンの起点として、低コストで高付加価値の水産物を国内・海外に供給する拠点をつくる。

（主な具体の施策）

- ・産地市場等の集出荷機能等の再編・集約
- ・流通拠点漁港等における高度な衛生管理に対応した岸壁、荷さばき所等の整備とともに、冷凍・冷蔵施設、加工・流通施設等の整備
- ・漁船の大型化情報の事前共有体制の構築と、大型化に対応した岸壁の延伸や泊地の増深
- ・輸出先国の基準・ニーズに対応した高度衛生管理や安定供給のための漁港機能の強化等
- ・産地市場における漁獲情報の処理の迅速化や省力化等に資するICTの導入
- ・海洋環境の変化等によるブリ類、イワシ類等の漁獲増加に対応するための漁港等の陸揚げ・荷さばき機能の強化 など



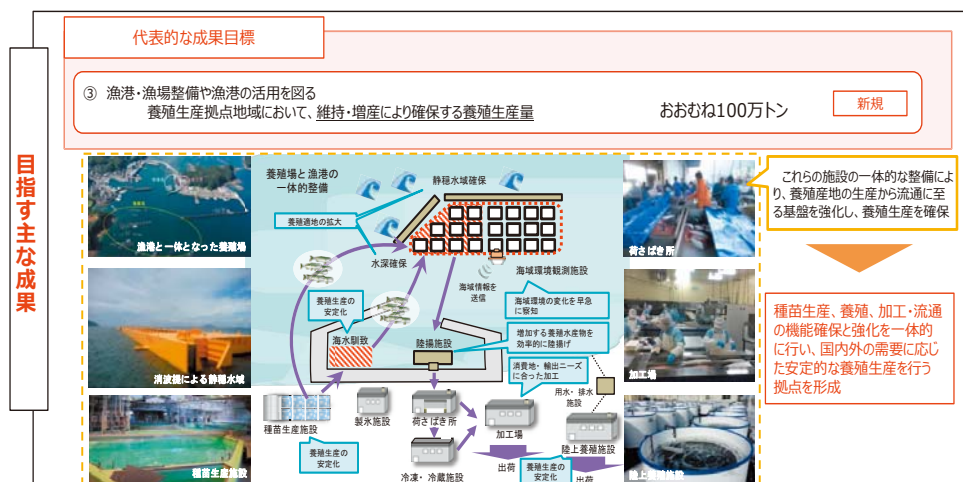
イ 養殖生産拠点の形成

（目指す姿）

養殖適地の拡大、安定的な種苗の確保、養殖作業環境の改善、加工・流通の機能強化を一体的に行い、国内・海外の需要に応じた安定的な養殖生産を行う拠点をつくる。

（主な具体の施策）

- ・マーケットイン型養殖業に対応し、需要に応じた安定的な養殖水産物の供給体制を構築するため、圏域計画において、「養殖生産拠点地域」を新たに設定
- ・静穏水域の確保・活用、漁場環境の改善による養殖適地の拡大
- ・種苗の確保から加工・流通に至る一体的な施設の整備や漁港の活用の促進
- ・漁港水域における養殖や用地を活用した陸上養殖の展開のための利用適正化 など



<重点課題(2)> 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

ア 環境変化に適応した漁場生産力の強化

(目指す姿)

海洋環境を的確に把握し、その変化に適応した持続的な漁業生産力を持つ漁場・生産体制をつくる。

(主な具体の施策)

- ・海域の環境変化等を的確に把握するためのモニタリング
- ・海洋環境の変化等に伴う漁獲対象魚種の多様化に対応した漁場整備
- ・沖合におけるフロンティア漁場整備や水産生物の生活史を踏まえた広域的な水産環境の整備
- ・海域ごとに策定された藻場・干潟ビジョンに基づく、ソフト対策とハード対策の一体的な実施
- ・閉鎖性水域における覆砂や海底耕うん等による底質環境の改善 など



イ 災害リスクへの対応力強化

(目指す姿)

頻発化、激甚化する自然災害や切迫する大規模地震・津波に対して、しなやかで強い漁港・漁村の体制をつくる。効率的な施設の維持管理等を行い、将来にわたり漁港機能を持続的に発揮する。

(主な具体の施策)

- ・大規模自然災害に備えた漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化や浸水対策
- ・災害時の救援活動、緊急物資輸送等の拠点となる漁港等における被災時にあっても必要な機能を確保するための施設の機能強化
- ・気候変動の影響により将来の潮位偏差の増大、波浪の強大化等を踏まえた設計手法等の導入
- ・被災時の円滑な初動対応のため、行政と地域の守り手として重要な漁港建設や漁協等との間での連携強化
- ・機能保全計画に基づく予防保全型の老朽化対策への転換と新技術の活用等による施設点検や施工・維持管理の効率化・省力化 など



＜重点課題(3)＞海業(うみぎょう)振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

ア 「海業(うみぎょう)」による漁村の活性化

(目指す姿)

海や漁村に関する地域資源を活かした海業(うみぎょう)等を漁港・漁村で展開し、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出す。
(※海業(うみぎょう)とは、海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業をいう。)

(主な具体の施策)

- ・地域の漁業実態に即した施設規模の適正化等の漁港の利活用環境の改善
- ・漁港と地域資源を最大限に活かした増養殖、水産物の販売など海業(うみぎょう)等の振興
- ・漁港における海業(うみぎょう)等の関連産業を集積させていくための仕組みづくり など

イ 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

(目指す姿)

年齢、性別や国籍等によらず多様な人材が生き生きと活躍できる漁港・漁村の環境を整備する。

(主な具体の施策)

- ・安全で働きやすい就労環境の確保を図るため、越波防止や防風等の安全対策の実施
- ・浮体式係船岸等の軽労化施設の整備
- ・漁港近傍の磯根資源が採捕できる漁場等の安全で作業が容易な生産の場の創出
- ・住みやすく快適な生活環境の確保を図るため、漁業集落排水施設、漁業集落道等の整備 など



おわりに

近年の北海道の水産業や漁村については、漁村人口の減少や漁業者の高齢化といった課題に加え、海洋環境の変化等によるサケ、サンマ、スルメイカ等主要魚種の減少、こういった状況に伴う増養殖の取組の重要性、またブリ、イワシ等暖水性魚種の増加など、取り巻く情勢が大きく変化してきています。

長期計画は、漁港等の水産業の基盤整備の推進を図る上で指針となるものですが、北海道開発局では、例えば、近年ブリの漁獲量が増加している羅臼漁港において衛生管理対策等を進めるため、令和4年度から新たな特定漁港・漁場整備事業計画を立ち上げました。このように、今後とも道内の各地域において、水産業の状況や長期計画の重点課題等を踏まえ、漁港の整備を推進してまいります。

我が社の安全衛生管理

株式会社 福津組 常務取締役 川村 和彦



1. はじめに



当社は、明治43（1910）年に北海道古平町で、宮大工の棟梁だった福津兼松が請負業として創業しました。以来、地域に根付きながら、古平町ひいては北海道の発展のため、豊かな社会基盤の整備に幅広く貢献してきました。単なるものづくりをするための建設業ではなく、造ったものが後世にわたり価値を提供し続けられるように、より高度な安全品質・施工品質確保に力を入れて取り組んでいます。



2. 安全衛生管理基本方針



当社は、働く人の健康と安全を守るという人間尊重の理性で考えられる最高の概念を手本として、一人ひとりの命と健康の尊さには何人といえども如何なる差もないことを最優先とし、確固たる責任感を持って安全衛生業務を継続的に行動し、安全文化を定着させ、安全・快適な職場環境を形成する。安全はすべてに優先し、危険予知を徹底し『危険な作業は絶対させない』ことを基本方針として実践しています。

【令和4年度安全スローガン】

『元気な挨拶 つながる絆

みんなでつくろう安全職場』

【労働災害減少目標、ゼロ災害達成目標】

安全衛生管理基本方針に基づいて元請会社と協力会社が相互に協力し、現場条件を十二分に検討し、業務の綿密な打ち合わせのもとに、お互いの意思疎通を図り、作業所に従事する全員が一体となって労働災害防止に取り組む、更なる安全体制を確立して、令和4年度は社会から信頼と共感をもって受け入れられる安全に強い企業体質の確立を目指して、ゼロ災害を第一の目標に労働災害防止に取り組んでいます。



3. 安全衛生管理計画



安全衛生管理基本方針を基に年度安全衛生管理計画書を策定し、年度重点実施事項、項目別実施事項を定めて、現場担当者に周知し、施工計画書作成時において作業所毎の安全目標を定めて労働災害“ゼロ”を目指し安全活動に取り組んでいます。

【令和4年度の重点実施事項】

1. 墜落・転落災害の防止
2. 土砂崩壊災害の防止
3. 建設機械・クレーン等災害の防止
4. 飛来落下災害の防止
5. 交通労働災害の防止
6. 感電災害・有害ガス・酸欠中毒災害の防止

【項目別実施事項】

1. 安全衛生管理体制の整備・強化
2. 作業環境の整備・改善
3. 作業方法の改善
4. 定期自主点検・健康診断・作業環境測定
5. 安全衛生教育の実施
6. リスクアセスメントの実施
7. 過重労働・メンタルヘルス対策
8. 職場の受動喫煙防止対策
9. その他安全衛生の実施
10. 新型コロナウイルス感染予防



4. 安全衛生管理活動



（1）安全衛生大会・安全衛生委員会

新規案件が稼働する時期に安全衛生大会を開催し、改めて一同が気持ちを引き締め、気持ちを一つにする機会にしています。

また、安全衛生委員会メンバーにより毎月委員会を開催し、各月毎に安全衛生管理計画と実施方針を検討し、

重点事項に対する具体的実施事項を基に実効ある安全衛生管理活動を実施することにより安全意識の向上を図っています。



安全衛生大会



安全衛生委員会の状況

また、新規入場者教育、安全ミーティング等を実施し現場内の情報交換を充実させ、労働災害防止に努めています。



安全ミーティングの状況

(2) 店社安全パトロール

毎月安全衛生委員をメンバーとして店社安全パトロールを実施しています。現場作業・安全設備の状況や必要書類の取りまとめについてチェックリストを使用して点検し、改善指示等については、是正報告書により確認します。



店社安全パトロールの状況



6. その他の活動



毎年、新学期が始まった児童の安全を願い古平建設協会が主催する「交通安全啓発運動」に参加しています。

また、海の日を前に本社前の砂浜の清掃活動を行いました。今後も、地域に根差した建設会社として地域の社会貢献活動を行っていききたいと思います。



交通安全啓発運動の状況



前浜清掃活動の状況



5. 作業所安全衛生管理活動



各作業所においては、リスクアセスメントを活用した工事安全衛生管理計画書を作成し、工事現場の特性に合った予想される災害・事故に対する災害・事故防止対策を定め安全衛生活動の強化に取り組んでいます。



安全衛生教育の状況



7. むすびに



近年、社会情勢は急激に変化し、人々の暮らしや働き方が多様化しております。それに伴い企業に柔軟な対応が求められており、当社の事業に関しては、これまで以上に安心安全の徹底、環境に配慮した取組が必然となります。当社の企業理念である「誠実・技術・信頼」を軸に多様な課題に柔軟な姿勢で向き合い、従業員やお客様、地域住民の皆様とコミュニケーションを図りながら、より一層地域に必要とされる企業を目指して努力してまいります。



『趣味と仕事 ～ワークライフバランス を考えてみる』

藤建設株式会社
取締役副社長 笹島 隆彦

「私の趣味」で書いて欲しいと依頼がありましたが、最初はお断りしていました。趣味は比較的多い方かなと思っており、いくつかの趣味は深く関わってきました。そのため、どの趣味にするか決まらず、また、深く関わるととってもマニアックな情報に偏ってしまう可能性があったからです。

ただ、そもそもなぜ複数の趣味を学生時代から現在までもつようになったか、そして、趣味と仕事や生活が非常に関係深く、相互に良い影響を及ぼしてきたのは事実なので、特に、最近のワークライフバランスなどの議論をみていると、何か参考になる経験が書けるのではないかと思います、筆をとらせていただきます。

【私の趣味は？】

まずは、主な趣味の紹介です。学生時代から、スキーとオートバイや車、更には彫刻や大工仕事などで、現在はあまりやっていないことも多くあります。それぞれはあまり共通点の無い趣味に見えますが、どうも空想や妄想することが趣味のようで、いろいろな事を頭の中で考えて、楽しんだりできる事が実際の趣味につながったような気がします。

また、一つの趣味に出会った時に、深く知りたくなり、熱中する傾向もあります。冒頭から、深く関

わるという表現を使っていますが、何をもって深いかという指標などは無いと思いますが、深く知るために必ずその道のプロや達人に接します。そして、趣味を本業にしないかと、プロの方からお誘いが何度かあったり、今でも作業依頼がいろいろなところから時々ありますので、深いという表現にしてみました。ちなみに、趣味を仕事にすることはありませんでした。それは、一つの趣味に絞る事が出来ないことと、仕事になってしまうと、無駄に深みを追求し、楽しんではばかりはいられないと思ったからでしょう。

【仕事の効率】

仕事を離れてみることは、仕事を円滑に効率良く進めるうえで役立つと思っています。

仕事で行き詰まったり、よくわからない業務が降ってくると、まずは、空白だらけや空想ばかりでも、エイヤッと最終成果を簡単に短時間でとりあえず作り上げます。その上で、よくトイレに入って一人の空間を確保しました。数分の仮眠と趣味を考えることで、脳のリフレッシュと、思考を仕事から容易に完全に離すことが出来ます。そうして離れてみると、ふと、仕事の方向性や解決方法などが相当な確率で見えてきて、その後の仕事が効率良く、モチベーションを新たにしてお仕事を進めることができた

した。

ちょうど作家の方が一気に書き上げ、一旦仕事から離れて、頭をリセットしてから推敲していく。そのリセットがすぐに出来るように温泉地で執筆するといった例と似ています。いかに、仕事の頭を切り替えるか、仕事をすぐに忘れるほど楽しい事があれば最高だと思いますし、趣味は、その強力なツールになり得ると思います。

現在のワークライフバランスの解説によくあるのが、仕事とプライベートの区別をしっかりとすることで、オンとオフのメリハリをつけて、気持ちに余裕を持って仕事に臨むことで、結果的に仕事へのモチベーションもアップするという説明があります。私は、仕事中に短時間の脳内のオフを造っていたと言えます。一方、趣味の時もふと仕事の事を思い浮かべることで、良いアイディアが生まれていました。常に仕事と趣味が混在していると思います。「アイディアが浮かびやすい場所」というキーワードでネット検索すると、デスク前や会議室は下位ですし、趣味の際に仕事の発想するという効用も評価されているようですので、多くの方が実感しているかもしれません。

【達成感とモチベーション】

趣味の世界は、結果を求めることよりは、過程を大切に楽しむ事が多いと思います。準備や計画や様々な事で小さな目的がたくさんあって、達成感を頻繁に味わえると思っています。仕事でも、結果を求め過ぎない、過程を大事に、出来るなら、小さな目標を設定して、達成感をなるべく作ると、関係者のモチベーションは上がる事が多かったです。また、趣味の世界では様々な方と知り合う事が出来、多様な考え方、価値観を知ることが出来たので、仕事にも参考になりました。時々、仕事の新たなアイディアを話題にして反応を見ることもしていました。

一方、趣味は、自分で楽しめれば良いという自己満足の事が多いです。また、同じ趣味であっても、

人それぞれ微妙に異なります。例えば、スキーでは滑るところも、グレンデやオフピステ（グレンデ内の整地されていないところ）があり、一度に滑る距離も個人差があったりします。趣味の仲間と楽しむという場合であっても、各自が違う嗜好という事を意識しながら、皆がある程度満足する企画と運営をする事が一番重要になります。これは仕事の進め方にも共通しているものと思います。よく、建設現場では段取り八分と言われています。現場でしっかりと出来ている人は、例えば飲み会の幹事を任せても、時間、場所、集める人、会の進行など見事にこなせる方がほとんどで、仕事と同じ方法でやっているなと感じたものです。趣味の世界は仕事の世界よりも個性が際立っており、一つにまとめる事は全く意味が無いですから、仕事の世界以上に大変かなと思います。

【これから】

さて、文字ばかりでは読みにくいでしょうから、紙面に載せられる写真を添付します。木材の写真は、ここ15年ほど家の施主施工を楽しんでおり、ちょうど大きなスパンの梁が必要になったので、一人で施工するために、学生時代に数ヶ月手伝っていた棟梁に教わった木材加工を数十年ぶりにやった写真です。修正無しの一発で組めて、今年の冬の豪雪でもビクともしませんでした。



最近、スキー仲間から、老後の体力が維持出来るよと、バックカントリースキーに誘われています。1、2時間かけてリフトも無い自然の山をスキーで登り、滑ることを一日に2、3回繰り返す遊び方です。もともとオフピステのスキーやトレッキングは大好きなので、まずは、体力を作りから始めようかと考え中です。さて、どうなることやら。新しい趣味の一つに追加されるかもしれません。

バックホウ浚渫船「栄富」 建造

株式会社富士サルベージ

1. 概 要

株式会社富士サルベージ（北海道函館市代表取締役須田新崇）は令和4年3月にバックホウ浚渫船「栄富」を建造いたしました。栄富は日立建機（株）の最新型EX1200-7（4 m³バケット）を搭載し特殊ブーム・アームにて最大浚渫可能水深-12mとした仕様です。

最大浚渫可能水深-12mはEX1200クラスでは国内最大水深となっております。



2. 特 長

①最大の掘削深度

本機のEX1200-7には11.0m特殊ブームと6.0m特殊アームにて最大掘削深さ14.13m、最大作業半径19.5mを基本設計した油圧ショベルとなっております。

②海洋大気汚染防止排ガス認証エンジン搭載

EX1200-7に搭載の原動機は海洋大気汚染防止排ガス認証（IMO国際海事機関）をうけたCummins製エンジンを搭載しており環境に配慮したクリーンエンジンとなっております。



特殊ブーム・アーム

③3D/BHMG浚渫仕様

本バックホウにはRTK-GNSS・チルトセンサー（ブーム・アーム・バケット）を装備しリアルタイムで浚渫状況を把握しながら施工管理を行うことができます。

常にバケット刃先位置を3次元で絶対位置を捉え、潮位の影響に気にせず掘削可能なため、進捗状況・施工順序を明確化することで掘残しのない施工が可能となります。



④ピンローラ式18mスパット 3本

ピンローラ式18mスパット（1000mm角）を3本装備して低騒音でスムーズな昇降により、安定した船体保持が可能です。

スパット操作は操作室にて集中操作が可能であり、浚渫作業時にはオペレーターとスパット操作員の2名での作業が可能となります。



3. 仕様

総トン数 270GT

全長/幅/深 34.00m/14.00m/2.50m

スパット装置 ピンローラジャッキ式 40t 3式
スッパッド長18.0m

搭載バックホウ EX1200-7 HITACHI
最大作業半径 19.52m
(バケット 4 m³新JIS)

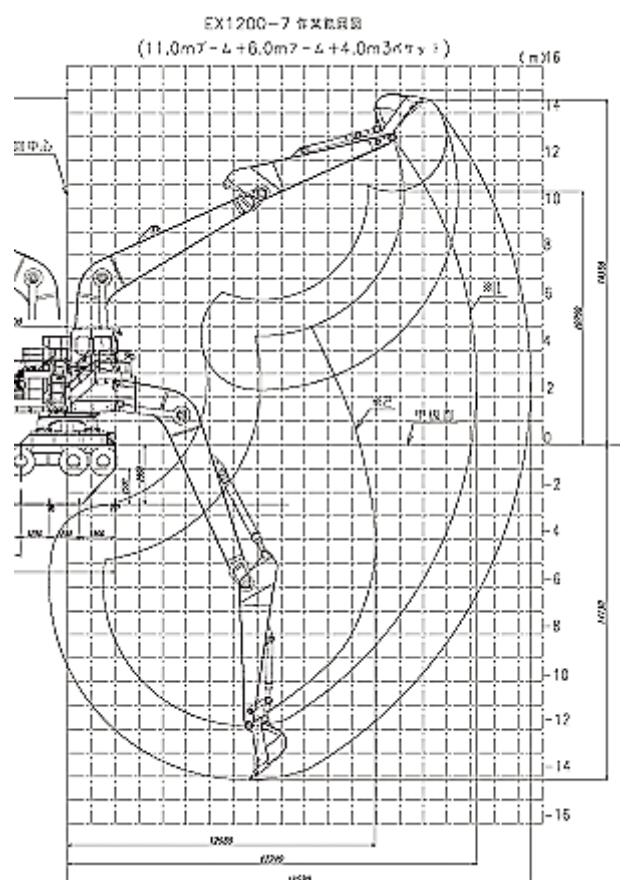
最大掘削深度 -14.13m (ブーム長11.0m・アーム長さ6.0m)
海洋大気汚染防止排ガス認証

水中ブレーカー 日本ニューマチック工業
GH-30 水中仕様

発電機 125KVA・45KVA Denyo

積載容量 重量 300t・土砂170m³

浚渫施工管理装置 浚渫バックホウマシンガイダンス
3D/BHMG浚渫仕様



しゅくづえとも 室蘭港祝津絵鞆地区 クルーズ船等受入岸壁の 暫定供用について

北海道開発局 室蘭開発建設部

室蘭開発建設部は、室蘭港祝津絵鞆地区の岸壁（水深11m）改良を令和元年から進めているところですが、室蘭港開港150年の記念すべきこの令和4年に、本施設に初めて係留するクルーズ船として「ぱしふいっくびいなす」を迎え、5月から暫定供用を開始しました。

これまで祝津絵鞆地区岸壁は、室蘭港におけるバルク貨物の物流拠点として重要な役割を担っておりました。しかし、施設の老朽化によりその機能が低下していたことから、既存ストックを活かした改良を行うことで、クルーズ船の受入も可能となりました。

これにより、物流機能のさらなる強化が図られるとともに、クルーズ船を中心とした胆振地域の新しい観光拠点が、周辺の観光資源と一体となって形成されることが期待されます。また、地域の活性化に寄与するとともに、第8期北海道総合開発計画に掲げる「世界水準の観光地の形成」にも資するものと考えております。

引き続き、クルーズ船の本格的な運航再開に向けて、ハード面での対応に加え、感染症対策の徹底や関係機関との連携強化など、ソフト面での対応を行うことにより、安全・安心なクルーズ船の受入環境を整備してまいります。



祝津絵鞆地区岸壁に係留する「ぱしふいっくびいなす」

枝幸港本港地区屋根付き岸壁 暫定供用開始

北海道開発局 稚内開発建設部

稚内開発建設部では、平成29年度から枝幸港本港地区物揚場（水深3.5m）（中央）において屋根施設（屋根付き岸壁）の整備に着手し、令和元年11月に現地着工して工事を進めてきましたが、令和4年3月に1棟目が完成し、令和4年6月から暫定供用を開始しました。

枝幸港は、地域の基幹産業である水産業を中心として発展し、その中でホタテは水揚量の約6割を占めている全国有数のホタテの産地です。平成25年には枝幸海域を含む宗谷南部海域が「対EU輸出ホタテガイ生産海域」に指定されたのを契機に平成27年からEUへの輸出を本格化し、近年はEU諸国のほか、アメリカや中国などへ輸出しています。

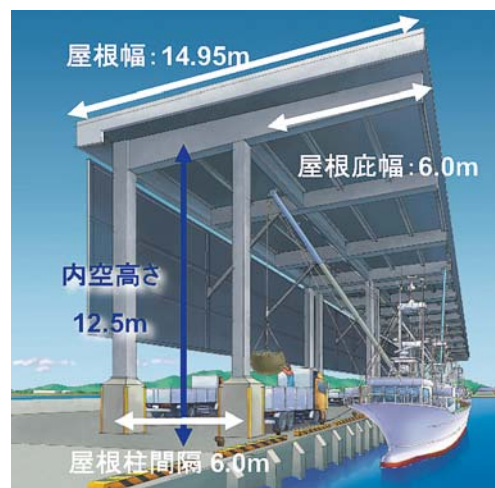
平成29年5月に枝幸港を含む道内6港湾管理者で策定した「農水産物輸出促進計画」が、全国で初めて国土交通省港湾局長から認定を受けました。この計画において連携水揚港湾として位置づけられた枝幸港では、岸壁の屋根施設を5棟整備する計画です。

屋根施設の構造は鉄骨構造で、屋根の底は漁船全体を覆うよう海側へ張り出し、内空高さは漁船のクレーン作業に支障の生じない高さ、柱はトラックが通行可能な間隔に配置しています。

屋根付き岸壁の供用により、直射日光や鳥糞等を防ぐことができ、水産物の品質確保を図ることによって、更なる輸出促進が期待されます。



航空写真（丸囲みが屋根施設整備箇所
（物揚場(水深3.5m)(中央)(改良)））



屋根施設の概要



屋根施設整備前のホタテ水揚げ状況



屋根施設整備後のホタテ水揚げ状況

みなとオアシスSea級グルメ 北海道大会in室蘭

6月25・26日、室蘭港開港150年・市制施行100年を祝う記念事業の一環として「みなとオアシスSea級グルメ北海道大会in室蘭」が室蘭市絵鞆臨海公園で開催されました。

両日とも最高気温が25℃を超える夏日だったこともあり、25日は約7,000人、26日は約9,000人と多くの来場が見られました。

Sea級グルメにはみなとオアシス室蘭をはじめ道内か

ら12店、岩手県宮古市のみなとオアシス宮古から1店の出店がありました。

また、関連イベントとして、港湾業務艇によるみなと見学会をはじめヨット体験乗船、大学研究機関による海藻類紹介、室蘭港パネル展等が行われました。

たくさんの来場者があったことから午前中に完売するところがあるなど、港を核とする賑わいが見られました。



出店概要



多くの店に来場者が並んだ



太鼓演奏



パネル展

◎事務局だより◎

◎計 報

当協会理事 堀松建設工業株式会社 代表取締役社長 堀松一郎氏が8月11日ご逝去されました。

堀松一郎氏は平成17年から当協会理事をはじめ、多くの役職を担われ、北海道港湾はもとより、道内建設業の発展にご尽力されました。

ここに謹んで哀悼の意を表すとともにお悔み申し上げます。



故 堀松 一郎 氏
昭和43年3月24日生まれ
(享年54歳)

略歴

平成7年 堀松建設工業株式会社 入社
平成12年 常務取締役
平成16年 代表取締役社長

団体歴

平成17年から北海道港湾空港建設協会 理事
平成17年から日本海上起重技術協会 理事
平成20年から留萌建設業協会 副会長
平成28年から北海道漁港建設協会 副会長
令和3年から全国浚渫業協会 副会長、北海道支部長

◎行 事

1. 北海道港湾空港建設協会 令和4年度第1回広報委員会

月日：令和4年6月23日
場所：ホテル札幌ガーデンパレス
内容：令和4年度基本方針（会報 発刊計画、年間スケジュール）ほか

2. 北海道港湾空港建設協会 令和4年度第1回技術委員会

月日：令和4年7月20日
場所：ホテル札幌ガーデンパレス
内容：令和4年度技術委員会活動方針（案）ほかについて

3. 国土交通省ほか要望活動

主催：北海道港湾空港建設協会及び（一社）北海道建設業協会 港湾・漁港部会
月日：令和4年7月26日
場所：国土交通省（港湾局及び北海道局）、道内選出国会議員
内容：港湾整備事業に係る要望書手交

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●真壁建設株式会社 代表取締役 山下 大介
(令和4年6月)

◎広報委員会だより◎

令和4年8月現在の広報委員は以下のとおりです。

委員長	小野 寺 勇	東亜建設工業(株)
副委員長	古田 圭也	東洋建設(株)
(部会長)	宮部 秀一	(株)菅原組
(副部会長)	大前 豊	五洋建設(株)
	石川 洋一	あおみ建設(株)
	今林 弘	菱中建設(株)
	上野 強	釧石工業(株)
	小玉 茂義	東亜建設工業(株)
	相馬 洋	近藤工業(株)
	高木 哲夫	萩原建設工業(株)
	千葉 不二夫	勇 建設(株)
	森 信幸	(株)不動テトラ

※広報委員会からのお願い

1. 新造船（機械・装置含む）の紹介
2. 注目される工事の着工、完成
3. 工事現場の紹介
4. 各地域の技術研究会・イメージアップ事業等の紹介をお待ちしております。

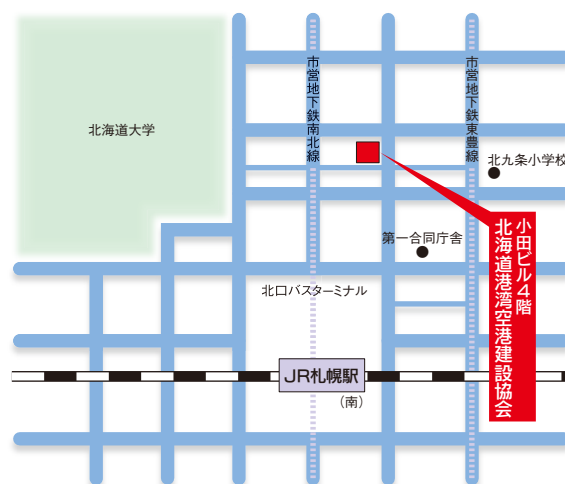


美国漁港利用状況



「写真提供：小樽開発建設部 小樽港湾事務所」

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.106

発行年月 令和4年9月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email:hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 宮部 秀一
 印刷 (株)須田製版